

入 試 年度	2026 年度	入試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻臨 床心理学専修
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	専門科目	

「解答」または「解答例」及び「出題の意図」

M 臨 29-1 【 I 】

【解答例（採点時の観点）】

思春期の子どもを対象とした心理療法に関する治療者側の留意点に関する理解について、以下の観点を中心に採点を行う。

1. 心理療法における以下の一般的な原則について説明できるか否か。
 - ① 受容・共感に基づいた姿勢で謙虚に、かつ関心を持って子どもの話に耳を傾けること。
2. 思春期の子どもの心性を踏まえた子どもに対する治療的関わりにおける以下の留意点のいくつかについて説明することができるか否か。
 - ① 思春期の子どもは自立と依存の葛藤にあり、矛盾した態度を示すこと、情緒の変化が激しいことがあることに留意し、治療者はクライアントに巻き込まれないよう、適切な距離の維持に努めながら接すること。
 - ② 思春期の子どものことばは一見、観念的に見えて、表現が十分ではないことがしばしば見られる。治療者はクライアントのことばの表面的な意味にとらわれず、ことばの背景を考えながら接すること。
 - ③ 治療意欲が乏しく、動機づけが難しいクライアントに対して、治療者は、子どもがそれまで見知った大人とどこか違う存在であることが伝わるよう、また、誠実でありながら自由である姿勢を心がけながら接すること。
 - ④ 思春期に見られる一過性の退行に対して、前進的な意味を読み取りながら接すること。
3. 思春期の子どもを持つ保護者に対する治療的関わりにおける以下の留意点のいくつかについて説明することができるか否か。
 - ① 親と治療者は仲間と見なされやすいため、治療者は秘密を守ることを原則としながら、内容によっては他の人々の協力が必要であることを踏まえたうえで、クライアントから得た情報についての取り扱いはクライアントに正直に告げる姿勢が必要とされること。

- ② 親の協力の大切さを十分に意識し、さまざまな「問題行動」を呈する思春期の子を持つ親に対してねぎらいの気持を持つとともに、親を性急に非難して治療者の敵に回さないようにすること。また、親と子の良好な関係の構築に向けて、治療者が親と子の関係のよき仲介者の役割を取ることが必要とされること。

【出題の意図】

思春期の子どもを対象とした心理療法に関して、治療者側に必要とされる留意点についての基礎的な理解を問う問題である。

M 臨 29-1 【Ⅱ】

【解答例（採点時の観点）】

下記の出題意図に示したように、広汎な心理学の知識を活用して心の健康教育を組み立てる能力を問うものであるため、模範解答を示すことはできない。ただし、内容的には、心の健康に関する基本的な知識の提供、ストレスマネジメント、人間関係と心の健康との関連性、不安やうつ、怒りなどの不快な感情への対応の仕方などが含まれていること、およびそれらが4回分の授業において有機的に関連づけられていること、実施方法としては、座学だけではなく、児童生徒間のディスカッションが含まれていること、さらにこれらの点について具体的に示されていることが求められる。

【出題の意図】

児童生徒の心の健康の維持・増進を図り、学校不適応を予防するための心の健康教育を実践できることは、臨床心理学を専攻する者として必ず身につけておいてほしい素養である。この問題は、これまで学習してきた広汎な心理学の知識を応用して、心の健康教育を組み立てる能力があるかどうかをみることを意図したものである。

M 臨 29-1 【Ⅲ】

【解答例】

(1) カール・グスタフ・ユング (Carl Gustav Jung)

スイスの精神科医、分析心理学の創始者。彼は無意識の概念を提唱したが、S.フロイトとの意見の相違から独立後、個人的無意識と集合的無意識の二つの要素に分かれると主張した。精神病圏を中心とする豊富な臨床経験と、精神医学のみならず、神話・文化人類学など多様な学問領域を融合させ、タイプ論や元型（アーキタイプ）、夢分析の拡充法など、以降の精神医療の発展に寄与する独自の理論を展開した。

（２）社会的比較

フェスティンガーにより提唱された理論である。人有している自分の意見，能力を正しく評価しようとする欲求に基づき，客観的，物理的な基準がない場合に他者の意見，能力と比較をして自分の意見，能力を評価しようとする過程を示す。自分より優れている人等と比較をすることを上方比較と呼び，自尊感情が低下する可能性がある。自分より劣っている人等と比較をすることを下方比較と呼び，自尊感情は保たれる。しかし，下方比較に関しては，自分も将来その比較対象と同じような状態になるかもしれないという懸念が生まれる可能性がある。

（３）永遠の少年

ユング心理学では人間のこころには普遍的な元型（アーキタイプ）があると考えられており，その一つが「永遠の少年」である。それは，「無限の可能性の中に生き，現実に着しない心の構造」を指す。具体的には，現実の責任（仕事・家庭）に縛られるのを嫌う，「もっと良い可能性」があると感じ決断を先延ばしにする，理想の人生をいつまでも求めやすい，繊細で傷つきやすい，といった特徴がある。精神的な純粋さをいつまでも保つことの働きでもあり，芸術などで才能を発揮しやすい。

（４）脱抑制型対人交流障害

脱抑制型対人交流障害は，DSM-5に規定された障害で，幼少期の重度のネグレクトや養育者の頻繁な交代など不適切な養育に関連して生じる。見知らぬ大人に過度に馴れ馴れしく接近し，警戒心や選択的愛着の乏しい対人行動が特徴である。発達水準に不相応な無抑制な接近行動が持続し，5歳以上で診断される。

（５）性的指向

対象となる性別に対する情動的，恋愛の，性的な魅力の持続的なパターンを指す。そのパターンが同性に向いていれば同性愛，異性に向いていれば異性愛，両性に向いていれば両性愛，どちらにも向いていなければ無性愛とカテゴリー化される。生物学的な性別，ジェンダー・アイデンティティ，性別役割とは異なる概念として理解されている。

（６）カクテルパーティー効果

騒音に囲まれた場所でも，自分の名前や興味のある会話を選択的に聞き取れる現象を指す。これは選択的注意と呼ばれ，脳が膨大な情報の中から必要なものを優先し，不要な音を背景へと退けることで成立する。この情報の取捨選択が適切に機能しないと，重要な音声や雑音に埋もれて聞き取りにくくなったり，周囲の些細な音に注意が引きずられて集中が妨げられたりする原因となる。

(7) 比率 IQ と偏差 IQ の違い

比率 IQ とは、精神年齢を暦年齢で割り、100 倍した値。かつてビネー検査で採用された。しかし知能の発達には直線的ではないため、年齢を基準として IQ を求めることは不合理と判断され、現在では用いられていない。一方、偏差 IQ とは標準得点に基づいた IQ の規準であり、ウェクスラー検査等で採用されている。これは、同年齢集団における個人の相対的位置づけを可能とする指標であり、現在では主流となっている。

(8) 完全無作為 1 要因デザイン

実験研究等において、研究者が明らかにしたい要因の各水準に調査協力者をランダムに割り当てて実験等を行うことにより、処遇の効果を評価する研究デザインである。例えば、実験群と統制群を設定した場合、処遇後の従属変数の結果を両群で比較することにより、他の干渉変数の影響を統制した処遇の効果を評価することができる。

【出題の意図】

臨床心理学および心理学全般に関する基礎知識の習得度を評価するために、計 8 問の小問を分野・領域が偏らぬように専修内で協議して設置した。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。